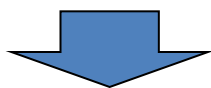


遠野市（東北圏ブロック）

【計画期間 21年3月～26年3月】

- ・藩政時代以降：城下町として、また沿岸と内陸を結ぶ宿場町として発展
- ・近年：遠野物語に代表される歴史・文化を活かしたグリーン・ツーリズムが盛ん

- 県立遠野病院が郊外に移転。(S55)
- バイパス開通後、郊外に大型店が相次いで立地し中心市街地が空洞化。
- 観光施設の郊外化と中心市街地の観光施設の魅力低下により、街なかの観光客が減少。



○街なか観光施設※の入込数

※とおの昔話村、市立博物館の2施設

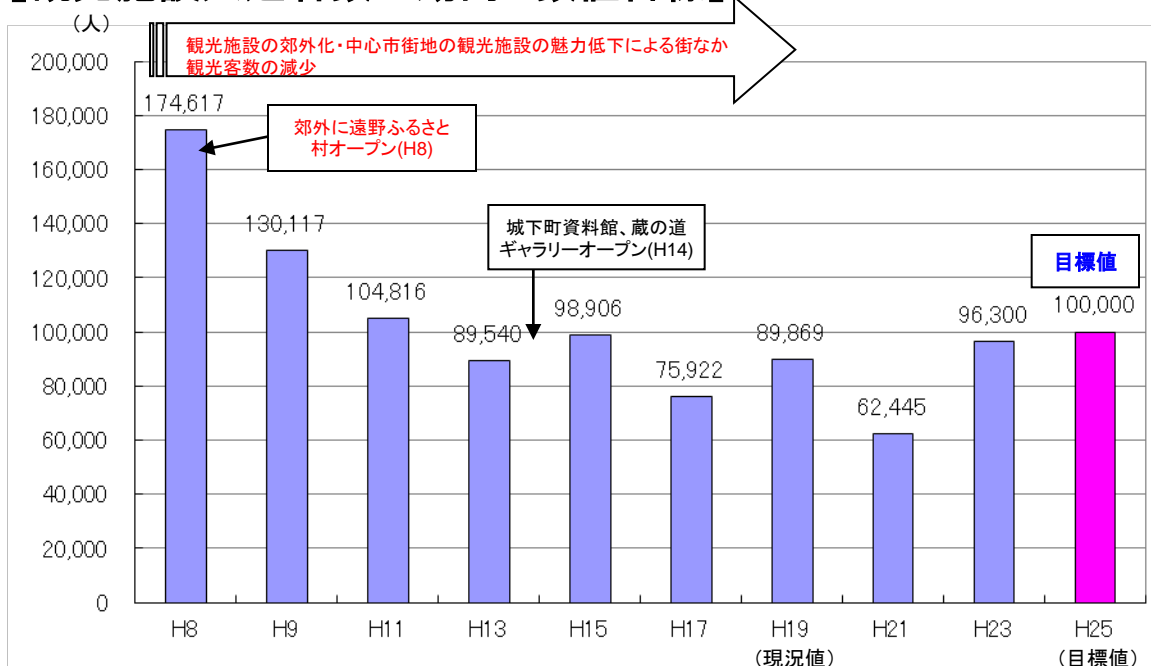
H9: 130,177人 → H19: 89,869 (▲31.0%)

○歩行者通行量

H9: 5,300人 → H20: 4,429人 (▲16.4%)

目標	指標	現況値	目標値 (H25FY)
多くの観光客が訪れる中心市街地	観光施設入込み数	89,869人 (H19FY)	100,000人
市民と観光客の回遊と交流により賑わう中心市街地	歩行者・自転車・バイク通行量	4,429人 (H20FY)	4,668人

【観光施設入込者数の動向と数値目標】



■地域資源を活かした街なか観光施設の整備等により、多くの観光客が訪れる街を目指す。

→主要事業：①新とおの昔話村整備事業、②観光交流センター整備事業、③博物館リニューアル事業、など

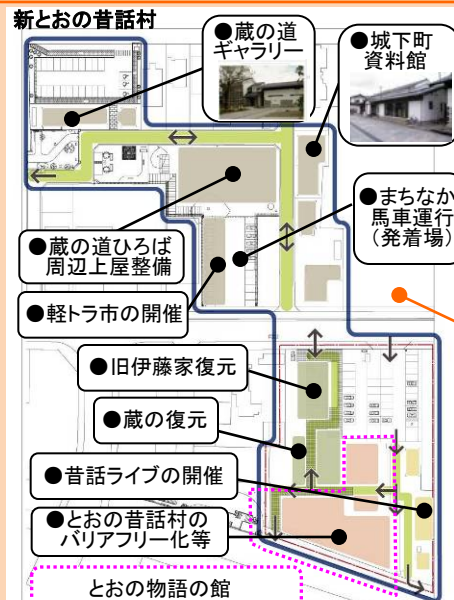
■市民等が活動・交流できる場の整備等により、市民と観光客の回遊と交流により賑わう街を目指す。

→主要事業：④まちなか趣味の博物館ネットワーク事業、⑤まちおこしセンター等の整備、など

遠野市中心市街地活性化基本計画の事業概要

町家の歴史・文化を活かした街なか観光の推進

○新とおの昔話村整備事業(①)
 とおの昔話村のバリアフリー化に加え、保存している旧伊藤家(町家)や蔵の復元、蔵の道ひろばの開閉式ドームの設置など、とおの昔話村を拡大して一体的に整備。
 語り部による昔話ライブの通年開催や柳田國男没後50周年(H24)の記念イベントを開催。



○観光交流センター整備事業(②)
 駅前に観光交流センターを整備し、観光情報の提供や観光ガイドによる遠野ツアーを提供。

○博物館リニューアル事業(③)
 遠野物語発刊100周年(H22)に合わせ、展示内容のリニューアルと博物館のバリアフリー化を実施。

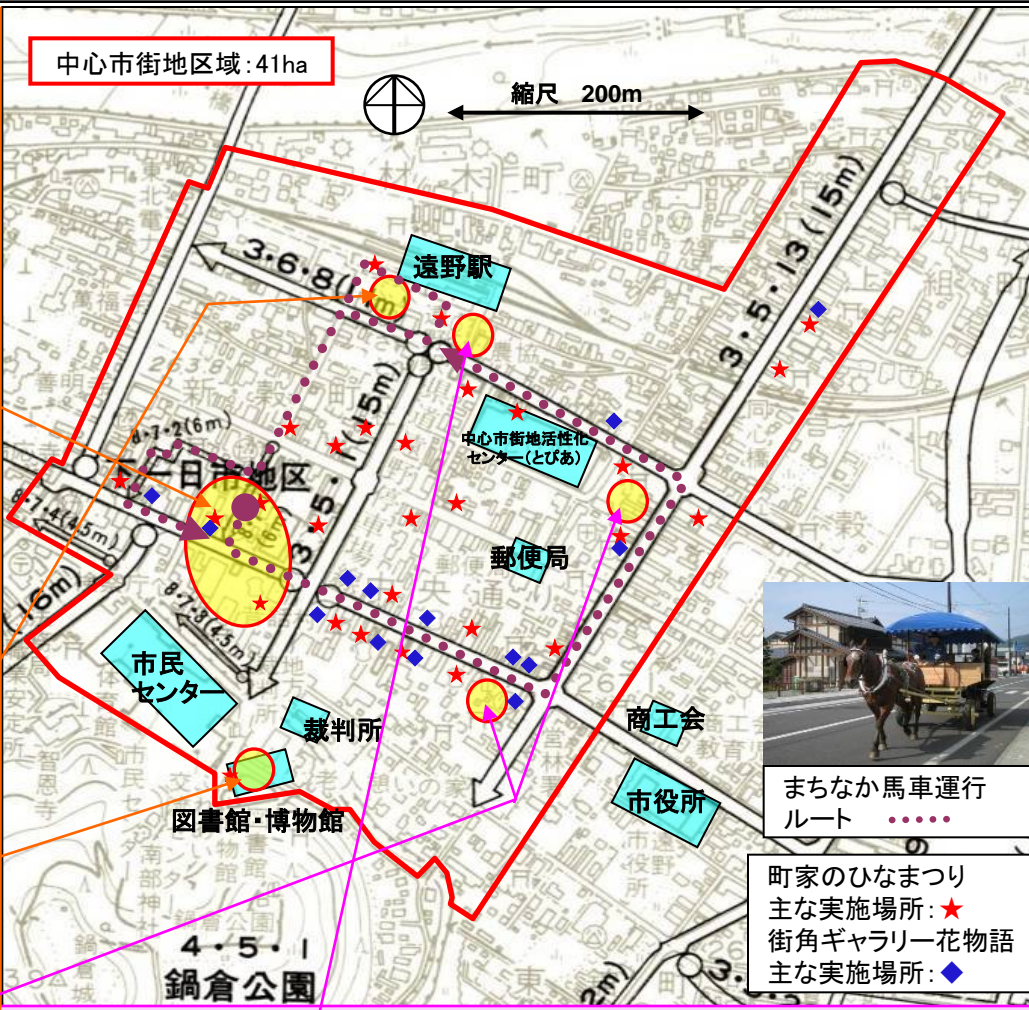
○観光ガイドの育成
 遠野の「物語」を伝える観光案内人や外国語ガイドを育成。



市民と観光客の回遊と交流による賑わいの創出

○まちなか趣味の博物館ネットワーク事業(④)
 空き店舗をネットワーク化し、高齢者等の手づくり作品や写真を募集・展示、特産品を販売。

○まちなか応援隊の整備
 まちづくりを応援する市民を「まちなか応援隊」として組織し、観光案内やイベント等を実施。



○まちおこしセンター等の整備(⑤)
 広域合併により撤退した旧JAビルに、市の産業部門や商業団体が入居し、まちおこし等の指導や市民の交流の場として再生。

○市民と観光客が交流するイベント実施
 「町家のひなまつり」や「街角ギャラリー花物語」など、市民と観光客が共に楽しむイベントを開催。

